

令和 6（2024）年度 卒業時アンケート集計結果総括

実施対象者：令和 7（2025）年 3 月卒業者 60 名（2023 年度対象者 3 名除く）

回答者数 : 55 名

回収率 : 91.7%

令和 6 年度卒業時アンケートは、設問内容に関しては昨年度と同様であるが、回答率を維持することと集計の利便性の観点から、マークシートによる回答および回収から、Google Form を活用しての回収となった。回答に当たっては 4 年次必修科目のアカデミアゼミ D の最終回授業内において教員より周知、QR コードを示したうえで授業内を中心に回収を実施した。

回答項目については以下の通りである。

- ① 本学の満足度について
- ② 社会人基礎力の 12 の能力要素について
- ③ 身についた知識・教養について
- ④ 外国語運用能力について
- ⑤ アカデミアゼミの活動について
- ⑥ 教職課程について（教職課程履修者のみ）
- ⑦ 国際日本コースについて（留学生のみ）
- ⑧ 大学での学びや生活について
- ⑨ 学生寮について（学生寮利用者のみ）
- ⑩ 大学への意見・感想

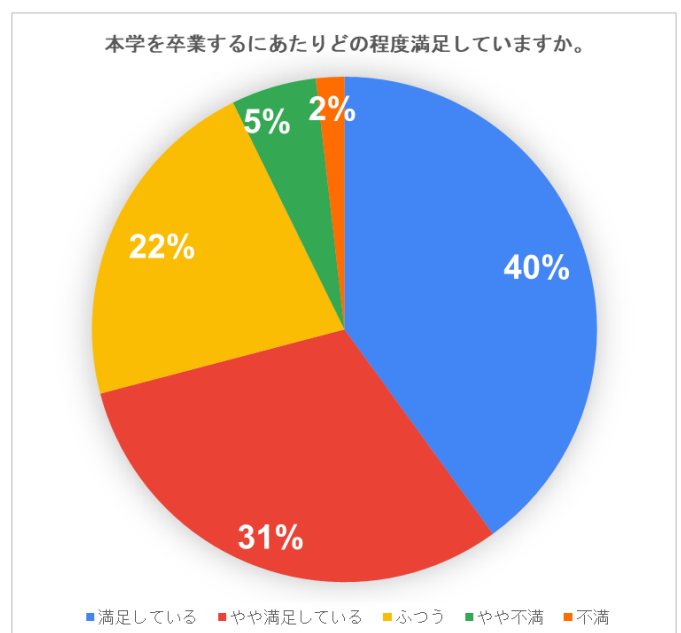
当該年度の卒業生は 2021 年 4 月入学者であり、入学当初は ZOOM と GoogleClassroom の活用によるオンライン授業と対面授業とのハイブリッド型授業を行っていた年次である。本学においては全国的に見てもオンライン化への対応はスムーズにできていたが、学生生活を考慮すると、昨年度と同様にそれぞれの項目について高い評価を得られない可能性があった。本アンケート総括では、全卒業生に関連のある項目それぞれについて簡単に振り返る。

① 本学の満足度について

右の図は本学を卒業するにあたりどの程度満足しているかを示したグラフである。入学はオンラインと対面とのハイブリッド型授業を余儀なくされた年次の学生たちであり、昨年同様に高い評価を得られない可能性もあった。しかしながら「満足している・やや満足している」を合計すると、71%の学生が満足しているという結果となった。

反して「不満・やや不満」と回答した学生は合計で 7%に留まる結果となり、概ね学生生活には満足していた学生が多かったことがわかる。

この結果は昨年度とほぼ同様である。

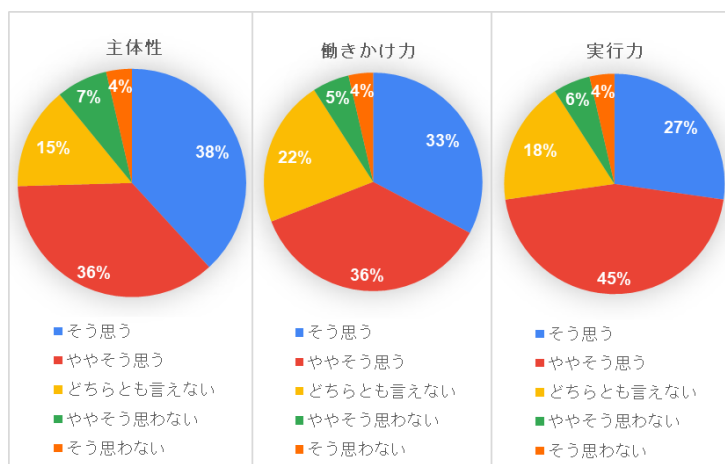


②社会人基礎力の12の能力要素について

ここでは社会人基礎力の示す「12の能力要素」のアンケート結果について、「3つの能力」に分けて振り返ることとする。

1, 前に踏み出す力の3項目

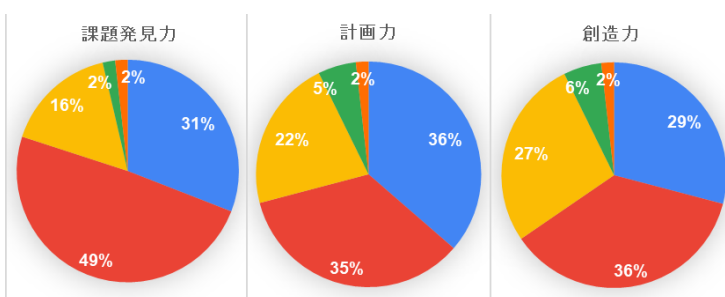
この能力の3つの要素については、主体性と実行力について評価が高いことがわかる。反して働き掛け力については肯定的な意見が相対的に少なく見える。それでも69%の学生が「そう思う」「ややそう思う」を選択しており、グループでの活動や友人関係においても積極的になってきた表れを示していると考えられる。



2, 考え抜く力の3項目

この能力の3つの要素については、課題発見力について特に評価が高いことがわかる。対面での学生生活が中心となり、学外での活動も増えてきたことや、学内活動についても大学祭の復活や課題解決プロジェクト等の取り組みの成果とも考えられる。

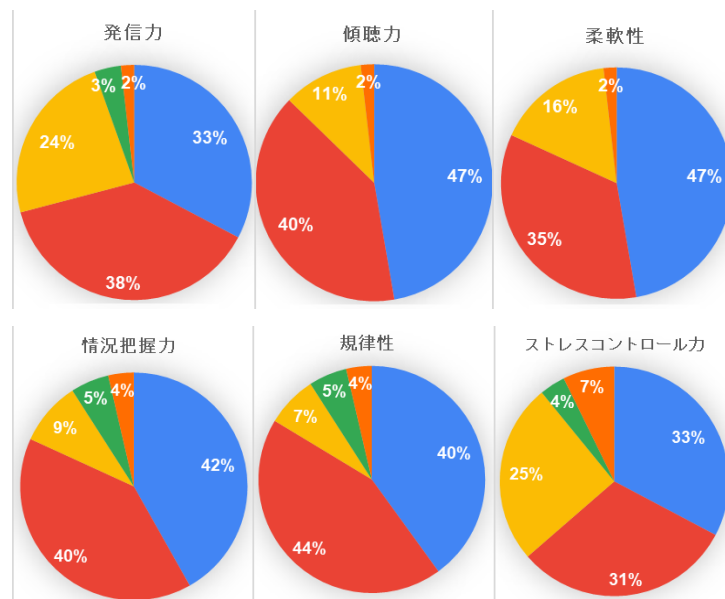
対して創造力については得意とまでは考えられていないのがわかる。



3, チームで働く力の6項目

この能力の6つの要素については、聴くスキルや柔軟性加えて状況把握などの評価はかなり高い。発信力を除いてコミュニケーションには不可欠な能力要素であり、より積極的に対人関係をはかる事が出来たのではないかと考えられる。

それに対して発信力やストレスコントロールについて見てみると、得意であるとは考えていない傾向は昨年と同様の結果となった。

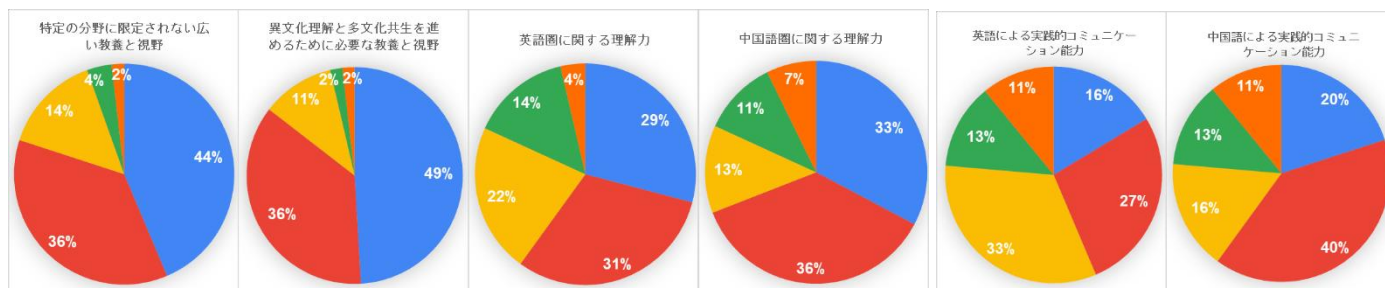


③身についた知識・教養について、④外国語運用能力について

身についた知識・教養について見てみると、「特定の分野に限定されない広い教養と視野」「異文化理解と多文化共生を進めるために必要な教養と視野」について、それぞれ80%と85%の学生が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。これらの結果については、留学生と日本人学生とが積極的に授業を受けられる環境が作用しているものと考えられる。

しかしながら、「英語圏に関する理解力」で60%、「中国語圏に関する理解力」で69%の学生が「そう思う」「ややそう思う」と回答しているにとどまっている。留学生との関係性以外の部分での理解が進んでいない可能性がある。

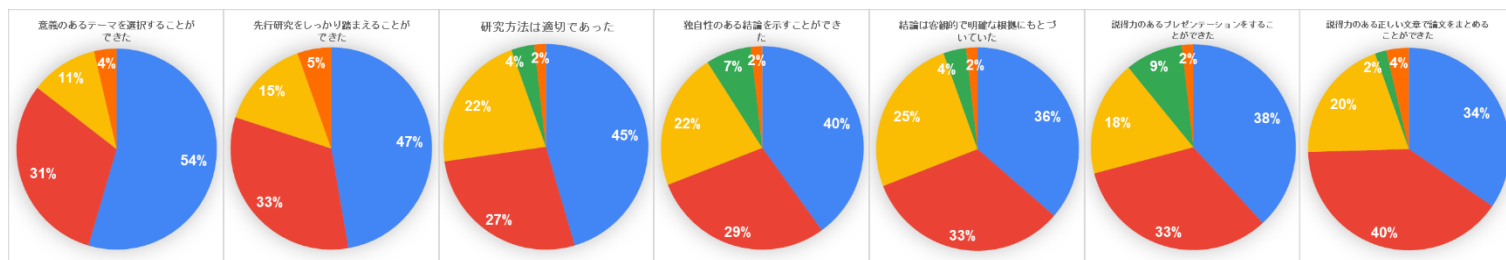
外国語運用能力については、「英語による実践的コミュニケーション」で43%、「中国語による実践的コミュニケーション」で60%の学生のみが評価しており、特に英語について文化や言語の理解と実際のコミュニケーションについての自信がリンクしていないことが分かる結果となった。



⑤アカデミアゼミの活動について

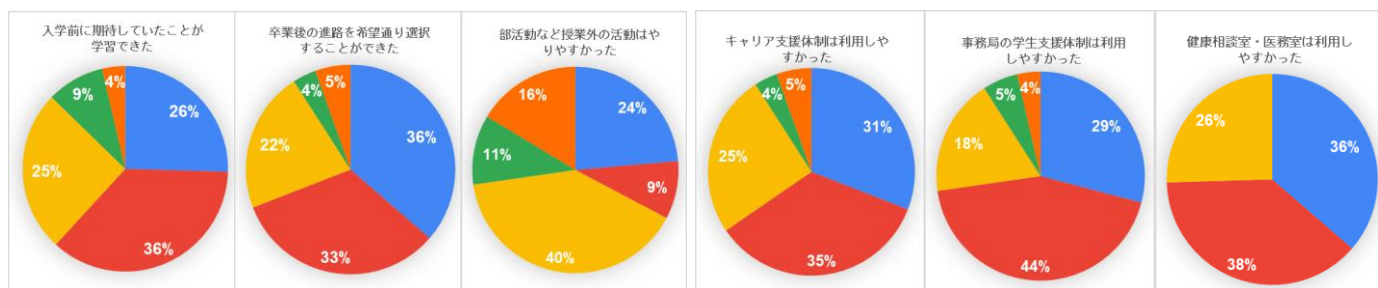
「意義のあるテーマ選定」「先行研究への対応」「研究方法の適切さ」「独自性のある結論の提示」の4点の質問に関しては、いずれも「そう思う」の回答が60%を上回った。特に「意義のあるテーマ選定」「先行研究への対応」については、「そう思わない」の回答が0%であり、研究テーマについて自身の納得できる選択が出来たものと考えられる。

「説得力のあるプレゼンテーション」について見てみると、「そう思う」「ややそう思う」の回答が71%あるのに対し、「そう思わない」「ややそう思わない」の回答が11%と最多である。社会人基礎力の項目でも言及した「発信力」について、やや苦手意識をもっていることとも関連がある者と考えられる。



⑧大学での学びや生活について

ここでは学修に対する期待、進路選択や学生生活について示すこととする。冒頭で述べたような環境に合ったにもかかわらず、期待通りの生活を送ることが出来たと考える学生が62%、進路についても69%の学生が概ね良好な評価をしている。事務局の支援体制に対する評価はまちまちであるが、肯定的な意見が大幅に増えた。キャリア支援体制と進路の満足度はやはり相関関係がある程度あるようである。また医務室の利用は「そう思わない」が無く、高い評価を受けていることが見て取れる。



⑩大学への意見・感想

【バス・食堂等に関するご意見】

コストがかかってしまうというのは分かっていますが、もう少しバスの本数があつた方がよいなと感じました。

スクールバスをもう少し新しい方に変えた方がよりいいと思います。

バス停で待っているとき、みんな並んでいるのに友達に話しかけるふりをして後ろに並ばず間から介入することがいつも見かけます。

寒い間にバスがなかなか来ないです。出発 10 分前にはバス停に来て欲しいです。

バスの本数が少ない

バスや食堂など、財政難なのかな？という面が多く見えてくるので、そこはもう少し考えられなかったのかなとは思いました。

食堂のメニューが少ない、それ以外は概ね満足

学食や売店のメニューの種類が少ないので増やしてほしい。

購買の営業時間も短くなってしまい、今までに比べて少し利便性が下がってしまったと感じました。

食堂のメニューも増やすようにした方がいいと思います。

食堂のテーブルの間隔が狭すぎて通りにくい所ができることがあつたのももう少し広くすれば使いやすくなると思いました。

大学祭などのようなイベントの日には盛り上がるように、授業の代わりみたいに扱った方がいいと思います。

色々と経費削減をされていき年々過ごしにくくなった

【学修や学生生活へのご意見】

自分の性格に合った大学で4年間学ぶことができて良かったです。ありがとうございました。

色んな事情や進み方の人がいる中で自分のペースで過ごすのがとても居心地が良い大学だと思いました。

色々知識を身に付くことが出来ました。

自分の日本語能力も上がってきました。

先生方との距離が近くてたくさんの知識が身についたのはすごく良かった

医務室の先生は生徒全員に対して平等に丁寧に接してくださったので過ごしやすいと思う生徒は多かったと思います。”

中国語や新しいことを知ることが出来てとても楽しい4年間だったと思います。 いい友人にも出会えました。

ありがとうございました。ここで学んだことを糧に頑張っていきたいと思います。

留学をしていたので相談がすごくしやすかった

以上